



天台宗 「シリーズ年中行事」③

# お施餓鬼のしおり



## 慈悲の心を養う

私たちは、誰もが浅ましい心(餓鬼の心)を持っています。財欲、色欲、食欲、名誉欲、睡眠欲、不平や不満など数え上げたらキリがありません。施餓鬼会は、知らず知らずにむさぼりを生じている我が身を反省し、とらわれから離れ、慈悲の心に立ち帰る機会であります。また、私たちは毎日何気なく、お米や野菜、肉や魚など、その生命を奪って生きています。すなわち私たちの命は、他の生命の犠牲の上に成り立っているのです。

施餓鬼会は、参列者の一人一人が、生活の糧の一部を有縁無縁の餓鬼たちにおすそ分けという布施をする機会です。

常日頃からの仏事を通して、他を思いやる「慈悲の心」を養ってまいりましょう。

南無過去寶勝如来

南無妙色身如来

南無甘露王如来

南無廣博身如来

南無離怖畏如来

## 【施餓鬼壇の五色幡】

五色幡は、餓鬼を救う如来を表します。飢えや渇きに苦しむ餓鬼を招き、安らかにするために壇上に掲げます。同時に方位も表します。

**南 寶勝如来** 餓鬼たちのむさぼりの心を捨てさせ、穏やかにします。

仏の不思議な力によって、一切の煩惱と苦しみを消し去り、福と智慧が得られます。

**東 妙色身如来** 餓鬼たちのみにくい姿を美しくします。

仏の妙なる力によって、煩惱にまみれた姿で苦しむ者を円満でふくよかな姿に戻します。

**西 甘露王如来** 餓鬼たちに甘露のような仏の教えを注ぎます。

仏の慈悲の心によって、潤いのある甘露のような教えを注ぎ、真の安らぎを与えます。

**中央 廣博身如来** 餓鬼たちの口と喉を広げ、食べ物を食べられるようにします。

傷つき満たされない心のため何も食べられず、教えを受けられなかった餓鬼たちを智慧という食物で満たします。

**北 離怖畏如来** 餓鬼たちの恐怖心を全て取り除き、餓鬼道から離れさせます。

妄念が生みだす恐怖心のために凍りついた心を融かし、やすらぎを与えます。

発行：天台宗総合研究センター

天台宗公式HP：<http://www.tendai.or.jp/>

## 施餓鬼会について

施餓鬼会とは、餓鬼に施す法会のことです。布施行の実践の一つです。一杯の器の水と飲食を陀羅尼の力や諸仏の慈悲心により飢餓に苦しんでいる餓鬼たちに与え、その善行功德によって三界萬霊・過去精霊すべての成仏を願う法会です。

施餓鬼の「餓鬼」とは、常に喉が渴き飢えに苦しむ存在です。僧は食事をいただく時、餓鬼のために七粒のご飯を取り置きます。これを生飯といい、「汝等、鬼神衆よ。我れ今、汝に施す。七粒を十方に遍くして一切の鬼神に供えんことを」と祈りを込めて、施しています。

また「餓鬼」とは、自分自身の心のあらわれの一つでもあり、むさぼりの心に捉われがちな私たちの心の象徴です。これらに対して「施餓鬼」という布施行を行い慈悲を施すのです。布施とは、むさぼる心をなくすことにその根本があります。

つまり「施餓鬼会」とは、檀信徒のみならず、施主となって、布施行を行い、塔婆を建立し法要を執り行います。その功德を廻らして、ご先祖さまへと施すのです。

仏教では、苦しんでいるものに慈悲の手を差し伸べることの大切さを説きます。施餓鬼会は、自分たちとは直接関係がないように見える、未だ成仏していない餓鬼や無縁の諸霊を供養することを通して、菩薩の実践行である布施行を行う良い機会なのです。

